

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-52C	22-018	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名（原題／訳）		
A longitudinal evaluation of alcohol intake throughout adulthood and colorectal cancer risk 青年期を通じてのアルコール摂取と大腸がんリスクの長期評価		
執筆者		
Mayen AL, Viallon V, Botteri E, Proust-Lima C, Bagnardi V, Batista V, et al.		
掲載誌		
Eur J Epidemiol. 2022 Sep;37(9):915-929. doi: 10.1007/s10654-022-00900-6.		
キーワード	PMID	
大腸がん、アルコール変化、アルコール摂取量、縦断的曝露、 Trajectory profile analysis、 潜在クラス混合モデル	36063305	
要 旨		
<p>背景: アルコール摂取は大腸がん（CRC）の確立された危険因子であるが、成人期の飲酒習慣の変化が CRC リスクを修飾するかどうかの知見は限られている。</p> <p>目的: 異なる年齢でのアルコール摂取に関する縦断的な曝露情報を活用し、アルコール摂取の変化とその後の CRC リスクとの関係を検討した。</p> <p>方法: European Prospective Investigation into Cancer and Nutrition（EPIC 研究：欧州がん栄養研究）において、ベースライン評価と追跡調査を比較することでのアルコール摂取量の変化と CRC リスクとの関係を検討した。解析は、CRC 罹患者 1,530 人を含む 191,180 人を対象とし、因果の逆転の影響を最小限にするために、追跡期間最初の 3 年間は除外した。20 歳、30 歳、40 歳、50 歳、ベースライン時および追跡期間中に評価したアルコール摂取の軌跡プロフィールを潜在クラス混合モデルを用いて推定し、5,008 人の CRC 発症例を含む 407,605 人を対象とし CRC リスクとの関連を検討した。</p> <p>結果: ベースライン時の平均年齢は 50.2 歳で、追跡評価は平均 7.1 年後に行われた。安定した摂取量と比較して、追跡調査中のアルコール摂取量の 12g/日の増加は CRC リスクと正の関連があり（HR=1.15、95%CI 1.04-1.25）、12g/日の減少は CRC リスクと負の関連があった（HR=0.86、95%CI 0.78-0.95）。トラジェクトリー解析では、アルコール摂取量が少ない群と比較して、成人期初期から中期、後期にかけてアルコール摂取量が平均 30g/日まで増加した男性では CRC リスクが有意に上昇した（HR = 1.24 ; 95%CI 1.08-1.42）。一方、女性では関連は認められなかった。解剖学的部位による違いはなく結果は一貫していた。</p> <p>結論: 成人期中期から後期にかけてのアルコール摂取量の増加は CRC リスクを上昇させるが、減少させるとリスクは低下することが示唆された。</p>		